

ゲキ×シネ 「SHIROH」

2008(平成20)年7月12日鑑賞(梅田ブルク7)

★★★★



監督＝江戸洋史／制作協力＝ヴィレッチ、東宝／作＝中島かずき／演出＝いのうえひでのり
／出演＝中川晃教／上川隆也／高橋由美子／杏子／大塚ちひろ／高田聖子／橋本じゅん／植
本潤／栗根まこと／吉野圭吾／泉見洋平／池田成志／秋山菜津子／江守徹／右近健一／河野
まさと（イーオシバイ、ティ・ジョイ配給／2005年日本映画／197分）

……『魔界転生』の天草四郎時貞とは異質な、島原の四郎時貞と天草のシロ一。「天の御子」はどちら……？ 手を結んだ2人の「SHIROH」と対決する「知恵伊豆」の戦略とは……？ 中島かずき作、いのうえひでのり演出作品は、奇想天外な発想と構成力が魅力だが、「ダブル」で登場する個性豊かな登場人物たちは魅力いっぱい！ とりわけ、劇団☆新感線初のロックミュージカルでは、「神の声」を持つシローの歌声に注目！

第4章

影武者から、リアルなダブルに

中島かずき作、いのうえひでのり演出作品は、途中休憩を含め約3時間だから長い。これは、奇想天外なストーリーを構成する個性豊かな登場人物が多いことが要因だが、ただそれだけの理由ではない。つまり、長くなるのはそのストーリーが複雑なためだ。そして、ストーリーを複雑にしているのは、歴史上の人物を1人に固定せず、「複眼的思考法」によって2人の人物にしているため……？

『髑髏城の七人』では、そのキーワードは影武者だった。つまり、逆臣によって志半ばで倒れた織田信長の生まれ変わりが天魔王だが、実は生まれ変わりとは真っ赤なウソ。織田信長の2人の影武者のうちの1人が天魔王となり、1人が玉ころがしの捨之介となっているわけだ。また、無界屋蘭兵衛も今は無界の里の主人として収まっているが、何を隠そう、元は「本能寺の変」から抜け出した森蘭丸なのだ。このように、『髑髏城の七人』ではそのタイトルにふさわしく、歴史上の人物を影武者として、また生まれ変わりとしてダブル登場させていたが、『SHIROH』は、ダブルとしての登

場の仕方は実にユニークだしわかりやすい。つまり、天草四郎時貞という歴史上の1人の人物を、島原に住む益田四郎時貞（上川隆也）と天草に住む（単なる）シロー（中川晃教）の2人に分解したところがミソ！

したがって、『SHIROH』の冒頭部は、この益田四郎時貞とシローの自己紹介（？）から始まることになる。そして中盤では、2人の「SHIROH」が「2人で一人前」とばかりに反乱軍のリーダーとして出発することになるが、その役割分担もユニーク。つまり、時貞は武器をとり戦いを指導するリーダーだが、神の声を持つシローは歌によって反乱軍を鼓舞する役割を担うわけだ。『髑髏城の七人』は1人の人間が2人に分解されているのを理解するのに一定の時間が必要だったが、『SHIROH』は最初からダブルだからわかりやすい。そんなリアルなダブルのキャラを早く理解したい。

『魔界転生』とは異質の、人間味いっぱい「SHIROH」が

山田風太郎の代表作『魔界転生』は、深作欣二監督が1981年に、平山秀幸監督が2003年に映画化した。そこで悲劇の美少年天草四郎時貞を演じたのは沢田研二と窪塚洋介。『魔界転生』における四郎は、そのタイトルどおり島原の乱の恨み、徳川に対する憎しみのために魔界から転生してきたものだから魔界衆（『シネマルーム3』310頁参照）。そのテイストは、『髑髏城の七人』において織田信長が生まれ変わったという天魔王とよく似ている。しかも、山田風太郎を一躍有名にしたいクノ一忍者と、山田風太郎お気に入りの（？）柳生十兵衛（橋本じゅん）が登場するから、そのテイストは山田風太郎そのもの。しかし、『SHIROH』における四郎時貞とシローは2人ともれっきとした人間で、魔界的な薫りがある登場人物は、後述のリオ（大塚ちひろ）だけだ。そのうえ、時貞は奇跡を行うパワーが失われたことで自信を喪失しているし、シローは仲間たちと海を渡る夢を描いているから、人間味がいっぱい……？さらに、2人の「SHIROH」は力を合わせて立ちあがるものの、時貞のシローに対する嫉妬心（？）を含めた微妙な主導権争いも垣間見えるから、2人の人間臭さをタップリと味わうことができる。その意味では、『SHIROH』に登場する四郎時貞とシローは、「魔界衆」の四郎時貞とはかなり異質。

『SHIROH』の曲想は……？

そもそもミュージカルとは不思議なエンタメ。だって、それまで普通にしゃべって

いた人間が突然歌い始めたり、死ぬ直前の人間が歌ったりするのだから。しかし、今やアメリカのブロードウェイ・ミュージカルやイギリスのウエストエンド・ミュージカルの人気は上々だし、日本でも劇団四季のミュージカルは大人気。劇団四季のミュージカルである『キャッツ』や『レ・ミゼラブル』などはすばらしいが、それはストーリー構成もさることながら、心にしみる名曲がたくさんあるため。その名曲はバラードが多いが、必ずしもそうではない。『SHIROH』はロックミュージカルだから当然ロック調の曲が多いが、それはそれでオーケー。また、劇団☆新感線らしく(?)おふざけ調の歌も多いが、それもオーケー。

他方、ロックミュージカルと言いながら、題材が題材だけにしっとりと心にしみるバラード曲も多い。特に、リオや寿庵(高橋由美子)、そして時貞の姉レシーナお福(杏子)が歌う曲はそういう傾向が強い。また何よりも際立つのは、「やはりシローの声は違う」「これこそまさに神の声」と、観客の誰もが納得する、天草のシローを演ずる中川晃教の声。彼の歌う歌は『SHIROH』の中核であり、心に残る名曲が多い。

歌は少し減らした方がいいのでは……?

それに対して違和感が強いのは、江守徹が演ずる松平伊豆守信綱が歌う曲。『レ・ミゼラブル』のジャベールはセリフ劇が多いが、堂々と歌いあげる骨太の名曲もある。しかし、松平伊豆守が低音で歌う曲は、議論の延長や内心を語るものが多く、歌としての完成度がイマイチ。劇団☆新感線初の本格ミュージカルだからといって、すべてを歌にする必要はないのだから、松平伊豆守に関しては歌を減らし、セリフ劇を増やした方が良かったのでは……?

また、それは上川隆也演ずる益田四郎時貞にも妥当する。そもそも歌唱力において上川隆也が中川晃教に敵わないことは当然であるうえ、四郎時貞用の歌も松平伊豆守と同様セリフの延長のような傾向が強い。したがって、それも曲としての完成度が低く、名曲として歌い継がれるようなものとは到底言えないものが多い。

そう考えると、全体として歌はもう少し減らし、特に松平伊豆守と四郎時貞についてはセリフを多くした方がよかったのでは。また、それによってシローの歌が引き立つことになるから、『キャッツ』では『メモリー』とされているように、『SHIROH』では『〇〇』と、後々まで歌い継がれる名曲を生み出してほしいものだ。

こんなコンビが！ あんなコンビが！

益田四郎時貞とシローはダブルの発想で生まれたキャラクターだが、『SHIROH』はコンビの発想によるキャラクターが多いのが特徴。その第1は、伊賀の女忍者として松平伊豆守に仕え、その信頼の厚い姉お蜜（秋山菜津子）と妹お紅（高田聖子）のコンビ。まず最初にお蜜が登場し、天草のシローたちと知り合いになるが、なぜお蜜は江戸からこんな辺鄙な地へ……？ その秘密は、後日松平伊豆守の下に仕えている妹のお紅と伊賀忍法〇〇の術によって連絡をとっているお蜜の姿を見れば明らかに。後半は、松平伊豆守が直々に島原へ出陣するに及んで、お紅もお蜜と直に「ご対面」となるが、さてこの姉妹の絆はいつまで続くのか、それが焦点……。

第2は、キリシタン奉行としてシローとゼンザ（泉見洋平）を逮捕する津屋崎主水（池田成志）と、時貞の父益田甚兵衛（植本潤）と姉のレシーナお福を逮捕する三宅蔵人（粟根まこと）のコンビ。2人とも悪役顔（？）ながら、シローの歌声につられてつい踊りだしたりするユーモラスな一面を見せるから、そんな2人の演技に注目！

第3は、反乱軍のメッカとなった島原の藩主松倉勝家（右近健一）と三河藩主板倉重昌（吉野圭吾）のコンビ。なぜ三河藩主の「しげちゃん」と島原藩主の「かっちゃん」が大の親友なのかよくわからないが、推察するに2人ともお調子者であるところが気が合うよう……？ 青と緑を基調としたチャラチャラした服装で踊り歌う曲は、ユニークで面白いから注目！ 島原の乱鎮圧の総大将に指名されながら、デビューの初日にあえなく1発の銃弾で死んでしまう板倉重昌はお気の毒。しかも、それはすべて松平伊豆守の計算づくというのだから、なおさら……。

『SHIROH』の登場人物は多いが、このようにコンビとしてそのキャラを対比して鮮明にすると面白いのでは……？

松平伊豆守の戦略は？

島原の乱が起こったのは1637年。徳川3代将軍家光の時代だ。島原の乱の原因はひと言で言えば、キリシタン弾圧と重税。中核となったのは天草四郎時貞に率いられたキリシタンたちだが、彼らが反徳川の旗印の下に結集してくることを期待したのは、重税にあえぐ農民たちの他、豊臣の残党たちだ。これを裏返して言うと、乱世に終止符を打ち、安定した平和な長期政権の基礎を築くためには、今まとめてこれらの不平

分子たちを叩くのが効率的ということになる。

小泉改革によって一定の成果をあげた後、安倍政権、福田政権と続く日本国が全然浮揚しないのは、そんな長期的な戦略をたてる知恵袋がないためだ。それに対して、あの時代、「知恵伊豆」と呼ばれた老中松平伊豆守が描いた戦略は、反乱の炎を燃えあがらせ、それを一挙に鎮圧した時はじめて徳川の国づくりの基礎が完成するという壮大な構想だから立派なもの。そんな「知恵伊豆」は「いい人ね」と言われるのが1番嫌い。なぜなら、「いい人ね」と言われる奴にちゃんとした戦略・戦術を立てられる奴など1人もいないから。つまり、松平伊豆守はみんなから嫌われることをやることによって、はじめて真の改革が実現できることを知っていたわけだ。今こそ日本国のリーダーとして、この知恵伊豆のような人間の登場が待たれるが……。

キーウーマンは、リオと寿庵

『SHIROH』の主役は四郎時貞とシローという2人の「SHIROH」だが、キーウーマンとして登場するのが、リオと寿庵。謎の女性がリオ。このリオという名前は、時貞が「ロザリオ」のイメージから勝手に呼んでいるだけ。そのうえ、リオを見ることができるのは時貞だけで、他の人たちには見えないらしいから、その存在自体が謎。ところが、そんなリオをシローも見ることができるらしい。そこから、時貞はシローのことを意識し始めたうえ、「神の声」を持つシローこそが「天の御子」かもしれないと考え始めることに……。

それは、かつて不思議な力によってさまざまな奇跡を起こしていた時貞が、今はその力を失ったと自覚しているため。父の甚兵衛も姉のレシーナお福も、時貞を天の御子として反乱軍のリーダーにしようとしていたが、時貞があくまでそれを拒否しているのは、そんな今の自分をよく知っていたため。そんな謎の女性リオが、なぜ要所要所に登場してくるの？ また、時貞が「ある事件」以降、なぜ天の御子としての力を喪失したの？ そこらあたりが、『SHIROH』全般を通じたストーリーの中核……。

他方、著名な画家の娘である山田寿庵は今、自由市場（闇の市）を主催しているが、それは一体なぜ……？ 天の御子としての自分に自信を失った時貞は、長崎時代によく知っている寿庵に反乱軍のリーダーを頼もうと考え、姉婿の渡辺小左衛門（河野まさと）と共に寿庵の屋敷に赴いたが、寿庵があくまで時貞の決起を促したのは当然。そんな時入ってきた情報は、甚兵衛とレシーナお福の逮捕。遂にここに四郎時貞は反

乱軍の決起を決意し、寿庵はそれに従うことを決意したが……。

後半、お蜜がストーリー展開の軸に

鎮圧軍の総大将板倉重昌を一発で仕留めた反乱軍の意気は盛んとなり、原城にはぞくぞくと重税に苦しむ農民たちが駆けつけてきた。こんな反乱軍の勢いが全国に流布されれば、豊臣の残党もそれに呼応して「反徳川」で立ちあがるはず。四郎時貞はそんな戦略を描いていたが、ホントにそれで大丈夫……？ そんな考えが甘かったと思いき知らされたのは、シローらと共に原城の中に入っているお蜜が、実は松平伊豆守が放ったスパイだということがわかり、彼女の口から「知恵伊豆」の壮大な構想を聞かされた時。密かに松平伊豆守と会っているところを目撃され、スパイだとわかった以上、お蜜の命がないのは当然。時貞以下みんながそう主張し、その急先鋒はもともとお蜜とソリが合わなかった(?) 寿庵。ところが、そこでただ1人異を唱えたのが、お蜜への信頼が厚いシローだった。さて、そこで展開されるシローの主張は……？ また、それを聞いたお蜜の揺れ動く心は……？ 他方、姉のお蜜がそんな境遇に陥っていることを知った妹のお紅と知恵伊豆の対応は……？ ここらあたりになると、『SHIROH』はがぜん人間臭いドラマになってくるから、あなたの目は一層スクリーンに引きつけられていくはず。そんなお蜜を演じた秋山菜津子の熱演に拍手！

マルチリヨとは？ パライソとは？

途中休憩の間にトイレに移動する時、聞こえてきたのは「歌詞がわかりにくい」という声。たしかにミュージカルの場合、普通のセリフをそのまま歌にすることが多いから、歌詞がわかりにくいことはよくあること。したがって、こんな大作の場合、歌詞をすべて載せた詳しいパンフレットがほしいが、販売されていなかったのは残念。

人物の名前や固有名詞などでわかりにくいものもあるが、私がこれはわからないだろうと思ったのは、マルチリヨとパライソ。前者は殉教、後者は天国だろうと思うのだが、私も自信なし。そこで、この評論を書くにあたって、Yahoo! JAPANの辞書を調べたところ、「マルチリヨ」はポルトガル語のキリシタン用語で殉教、「パライソ」もポルトガル語のキリシタン用語で、天国、楽園、パラダイス、パライゾ、ハライソとのこと。これでやっと、あの歌、この歌を正當に理解できていたと納得したが、やはり詳しいパンフレットは欲しい……。

たしかに、粗削りだが勢いが!

『SHIROH』のチラシの中で、中島かずきは「実に新感線らしい、またもや“粗削りだが勢いのある”作品が生まれてしまったと思う」と述べているが、私も同感。2人の「SHIROH」という大胆な発想と骨太の構成力は実に立派。そして、シロー役への中川晃教の起用は大正解だ。他方、リオの位置づけと登場の仕方や、寿庵の役割はイマイチ粗削り。また、松平伊豆守の歌だけはどうもいただけない、というのが私の正直な感想だ。さて、『SHIROH』のパート2が上演される時は、ストーリーの基本は同じでも、役者がどのように変わり、テイストがどのように変わっているのか、今から楽しみだ。

2008(平成20)年7月16日記

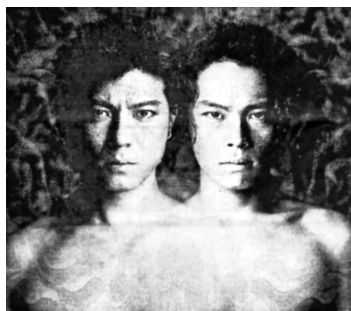
「ツアー2008」で劇団☆新感線を!

弁護士 坂和章平のMAYE
LAW DE!
SHOW

36

ゲキ×シネ「SHIROH」

きょうから梅田ブルク7で公開



©2006-2007 E! oshibai Co.,Ltd.

(上川隆也)のほか、もう一人神の声を待つシロー(中川晃教)が登場するがミソ。つまり沢田研一や窪塚洋介が『魔界転生』(八一年、〇三年)で演じた魔界衆としての四郎とは異質の、天の御子ながら意外と人間臭い四郎が登場するわけだ。私は、なんと松山市への「ふるさと納税」第一号となったが、この制度の浸透度はイマイチ。また権限と財源の移譲を目

「ゲキ×シネ」とは、演劇と映像を融合させた新たなエンタメ。梅田ブルク7では、今その「ツアー2008」を実施中だ。

『罫襷の七人』は市川染五郎が「現代の歌舞伎の誕生」を絶賛したいのつえ歌舞伎」の代表作だが、その『アオドロク』と『アオドロク』の上映

は好評のうちに終了。中島かずき作、いのうえひでのり演出による劇団☆新感線版の特徴は、奇想天外な発想と大掛かりかつ緻密な構成の中、庶民の姿や庶民の視点を描いていること。また織田信長や森蘭丸など歴史上の人物を教科書通りに固定せず、大胆なキヤラ変更をしている。

『罫襷の七人』は、逆臣の手で倒された織田信長が天魔王として関東の地に蘇るのが物語の核だが、主人公は奇しき縁に操られて罫襷城に集まる個性豊かな七人の男女たち。

他方、ハードロックミュージカル『SHIROH』は、島原の乱の首謀者となった天草四郎時貞

指す地方分権改革推進委員会の勧告も骨抜き気味。そんな中、島原市と天草市の二人の四郎は、『坂の上の雲』における秋山好古・真之兄弟や正岡子規同様、地方分権推進ともつくり運動の象徴ともいえる価値が高い。北京五輪直前の七月は、ぜひコレで興奮と感動を!

大阪日日新聞 2008(平成20)年7月12日